

○趣旨

気候変動の影響等により大規模水害発生のおそれが高まっていることから、避難時の大混雑や多数の孤立者の発生が懸念される首都圏等における、洪水や高潮氾濫からの大規模かつ広域的な避難の在り方等を検討するため、中央防災会議に設けられている防災対策実行会議の下にワーキンググループを設置する。

(三大都市圏等における具体的な避難計画の立案にあたり、国・地方公共団体が直面している課題を解決)

○論点

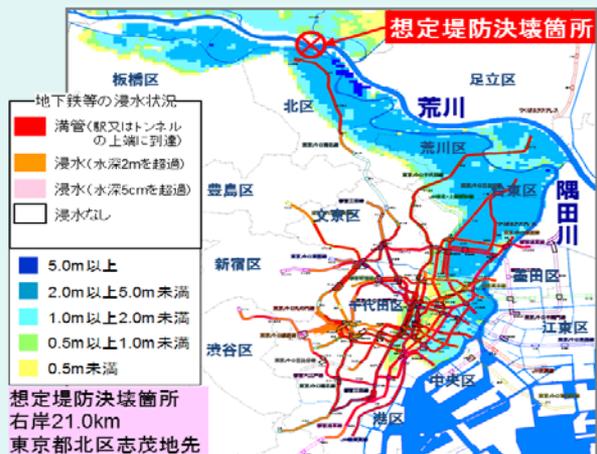
- ・ 地区毎の避難開始タイミングの考え方
- ・ 立退き避難時の混雑緩和の考え方
- ・ 浸水区域内に留まらざるを得ない場合の考え方
- ・ 市区町村の境界を越えた避難所確保の考え方
- ・ 避難・救出のための氾濫水制御の考え方
- ・ 国・都府県の関わり方 など

○メンバー

- ・ 学識経験者
- ・ 関係省庁
- ・ 都、区
- ・ 交通事業者

荒川右岸低地氾濫の被害想定

① 浸水範囲 (最大浸水深目)



想定堤防決壊箇所
右岸21.0km
東京都北区志茂地先

【死者数の算出条件】 ・65歳以上:住宅・建物の最上階の居住階まで避難
・65歳未満:住宅・建物の屋根の上等に避難

【降雨条件】 流域平均雨量 約550mm/3日 (流域面積 約2,100km²)

② 浸水面積

約110km²

③ 浸水区域内人口

約120万人

④ 死者数

約2,000人

⑤ 孤立者数

最大約86万人

(決壊1日後)

⑥ 地下鉄等の浸水被害

17路線、97駅、
約147km

(対策が現況程度の場合)

○進め方

洪水・高潮氾濫からの大規模・広域避難検討WG

基本的な方針
制度改善の必要性等

(今回新たに設置)

連携

具体的な避難方法等

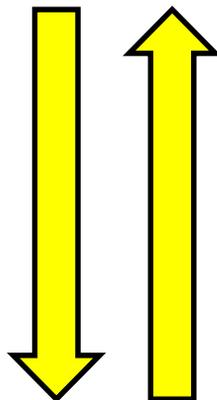
荒川下流域における協議会等

※大都市圏における地元自治体による協議会等が結成されれば随時連携

	各回の検討内容(案)
第1回(本日)	本ワーキンググループ全体の検討事項、進め方
第2回(12月頃)	浸水区域内に留まった場合のリスクを軽減させるための課題整理と改善方策
第3回(2月頃)	浸水区域外に広域避難した場合の実現困難度を軽減させるための課題整理と改善方策
第4回(来年夏)	域内避難と域外避難の組合せの考え方
第5回(来年秋)	適切な避難行動に近づけるための社会環境の整備
第6回(来年冬)	全体の制度設計、とりまとめ

洪水・高潮氾濫からの大規模・広域避難検討WG

- 避難についての基本的な考え方の整理
- 制度改善の必要性の検討



- 実地で得られた知見や課題についてのWGとの共有
- WGで検討すべき事項や制度改善についての提言
- WGで検討された内容について実現可能性を実地で検証

木曾三川下流部 広域避難実現プロジェクト

東海ネーデルランド高潮・洪水地域協議会

江東5区広域避難推進協議会

上記をはじめとする地域での取組と連携